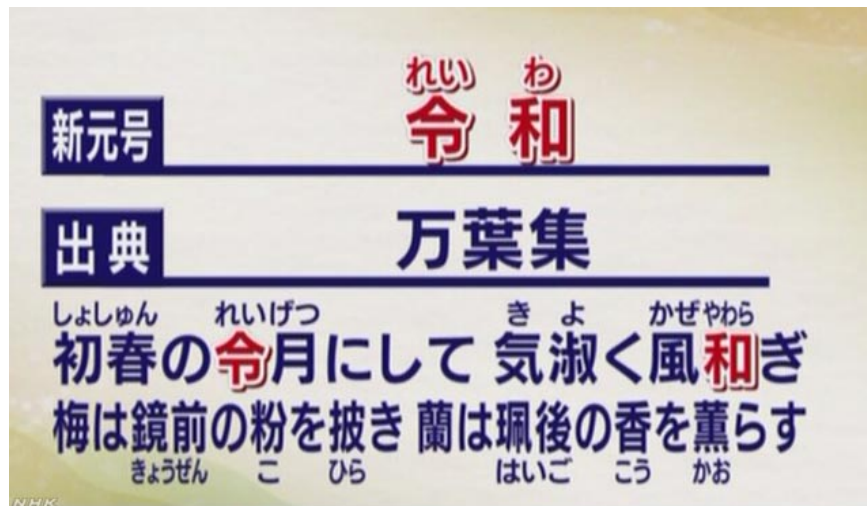


新元号「令和」に関する安倍晋三首相が1日、行った記者会見での一問一答は



本日、元号を改める政令を閣議決定いたしました。新しい元号は「令和」であります。これは万葉集にある「令和」は万葉集の梅の花の歌32首の序文にある「初春の令月(れいげつ)にして、気淑(よ)く風和(やわら)ぎ、梅は鏡前の粉(こ)を披(ひ)らき、蘭は珮後(はいご)の香を薫(かお)らす」との文言から引用したものであります。そして、この令和には人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込め

られています。

万葉集は1200年あまり前に編さんされた日本最古の歌集であるとともに、天皇や皇族、貴族だけでなく、防人(さきもり)や農民まで幅広い階層の人々が詠んだ歌が収められ、我が国の豊かな国民文化と長い伝統を象徴する国書であります。

悠久の歴史と香り高き文化、四季折々の美しい自然、こうした日本の国柄をしっかりと次の時代へと引き継いでいく。厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように一人一人の日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたいとの願いを込め令和に決定いたしました。

文化を育み、自然の美しさをめぐることができる平和な日々心からの感謝の念を抱きながら希望に満ちあふれた新しい時代を国民の皆さまとともに切り開いていく。新元号の決定にあたり、その決意を新たにしております。5月1日に皇太子殿下がご即位され、その日以降、この新しい元号が用いられることとなりますが、国民各位のご理解とご協力をたまわりますようお願いいたします。

政府としてもほぼ200年ぶりとなる歴史的な皇位の継承がつつがなく行われ、国民こそってことごとくことができるよう、その準備に万全を期してまいります。元号は皇室の長い伝統と、国家の安泰と国民の幸福への深い願いとともに、1400年近くにわたる我が国の歴史をつむいできました。日本人の心情に溶け込み、日本国民の精神的な一体感を支えるものとなっています。この新しい元号も広く国民に受け入れられ、日本人の生活の中に深く根ざしていくことを心から願っています。私からは以上です。

——これまで元号は全て中国の古典を由来としてきたとされております。改めて日本の古典「万葉集」を由来として令和に決めた総理の思いを。また、平成の30年間は国内では人口減少が進み、また自然災害が相次ぎました。めまぐるしく変化する国際情勢やデジタル化など日本は今大きな転換点を迎えています。5月1日の改元まで残り1カ月となったことを踏まえ、平成の次の時代をどのような気持ちで迎え、次の時代にどのような国造りをするか、お考えをお聞かせください。

我が国は歴史の大きな転換点を迎えています。いかに時代が移ろうとも、日本には決して色あせることのない価値があると思います。今回はそうした思いの中で歴史上初めて国書を典拠とする元号を決定しました。

特に万葉集は1200年あまり前の歌集ですが、一般庶民も含め地位や身分に関係なく幅広い人々の歌が収められ、その内容も当時の人々の暮らしや息づかいが感じられ、まさに我が国の豊かな

国民文化を象徴する国書です。これは世界に誇るべきものであり、我が国の悠久の歴史、薫り高い文化、そして四季折々の美しい自然。こうした日本の国柄はしっかりと次の時代に引き継いでいくべきであると考えています。

同時に急速な少子高齢化が進み、世界がものすごいスピードで変化をしていく中で、変わるべきは変わっていかなければなりません。平成の30年間ほど、改革が叫ばれた時代はなかったと思います。政治改革、行政改革、規制改革、抵抗勢力という言葉もありましたが、平成の時代、さまざまな改革はしばしば大きな議論を巻き起こしました。

他方、現在の若い世代、現役世代はそうした平成の時代を経て、変わることを、改革することをもっと柔軟に前向きに捉えていると思います。ちょうど本日から働き方改革が本格的にスタートします。70年ぶりの労働基準法の大改革です。かつては何年もかけてやっと実現するレベルの改革が近年は国民的な理解のもと、着実に行われるようになってきたという印象を持っています。

そうした中で次の世代、時代を担う若者たちがそれぞれの夢や希望に向かって頑張っていける社会、1億総活躍社会を作り上げることができれば日本の未来は明るいと、そう確信しています。新しい元号のもと、一人一人の日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができる、そういう時代を国民の皆さまとともに築き上げていきたいと思っています。

——平成の発表の際と異なり、自ら談話を読み上げた理由は。

◆今回、元号を発表するにあたり、誰が発表するのかという議論があったかと思っています。新しい元号は本日、政令という形で閣議決定しましたが、通常、閣議の内容は、官房長官が公表しております。そのため今回も、新元号につきましては、平成の時と同じように官房長官が発表することといたしました。

そのうえで平成の改元時には、当時の竹下(登)総理の談話が発表されています。当時は総理大臣が会見を行うということは極めてまれでありましたが、平成の30年を経て、総理大臣が直接発信する機会も増大をしました。

私自身、何らかの出来事があると、官邸に入る際、記者の皆さんから声がかかり、マイクを向けられることもあります。そうした時代にあって、平成の時と同じように総理大臣談話を発表するのであれば、私自身が会見を開いて国民の皆様へ直接、申し上げるべきだと考えた次第であります。

また、元号の選考につきましては、他の案が何かということも含めまして、検討過程について申し上げることは差し控えますが、我が国が誇る悠久の歴史、文化、伝統のうえに次の世代、次の時代を担う世代のために、未来に向かってどういう日本を築き上げていくのか。そしてその新しい時代への願いを示すうえで、最もふさわしい元号は何か。という点が一番の決め手でありました。

——若い世代やこれから生まれてくる子どもたちのような、これから「令和」を担う世代のことを、選定にあたってどのように考えたか。

◆今回の会見について、インスタライブやツイッターで生中継がされていますが、今の若い世代はこうしたSNSなどの新しいツールを見事に使いこなすことで、どんどん新しい文化を作り上げています。

ニコニコ動画もですね、既存メディアの発想にとらわれることなく、子どもたちならではの柔軟さで多様な番組を生み出して、リアルタイムで個人がコメントを発信できる新しいメディアの姿を形作られたと思っています。

そしてこうした若い世代の新しいムーブメントは、確実にこれまでの政治や社会のありように大きな変化をもたらしつつあります。本当に頼もしい限りだと思っており、日本の未来は明るいと感じています。

新しい時代には、このような若い世代の皆さんがそれぞれの夢や希望に向かって、思う存分、活躍することができる時代であってほしいと思っています。この点が今回の元号を決める大きなポイントでもありました。

今回の元号は、万葉集にある梅の花の歌 32 首の序文からの引用です。この中では、厳しい寒さの後、春の訪れを告げるように見事に咲き誇る梅の花の情景が美しく描かれております。

平成の時代のヒット曲に「世界の一つだけの花」という歌がありましたが、次の時代を担う若者たちが、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そのような若者たちにとって、希望に満ちあふれた日本を国民の皆さまとともに作り上げていきたいと思っています。

——2月と3月の下旬に、皇太子殿下と会われています。そのときの即位にあたっての思いなどはいかがであれば教えてほしい。即位後は、どのような関係を築いていきたいと考えているか。

◆2月22日と3月29日に皇太子殿下にお会いいたしました。その際の内容などについてお答えすることは差し控えさせていただきたいと私からさせていただきたいと思っております。

皇太子殿下におかれては、今年2月のお誕生日に際しまして、天皇陛下のこれまでのお姿を心に留め、「国民につねに寄り添い、人々とともに喜び、あるいはともに悲しみながら、象徴としての務めを果たしていきたい」との気持ちを明らかになさったと承知をしており、大変ありがたいことであると考えています。

私としては皇太子殿下のご即位を心からお慶(よろこ)び申し上げますとともに、先ほど申し上げた殿下のお気持ちをしっかりと受け止め、新しい令和の時代を、国および国民の統合の象徴となる殿下とともに歩みを進めてまいりたいと思っております。

今月は平成最後の月となります。このひと月、平成の時代に、そして天皇皇后両陛下のご足跡に思いをはせつつ、新しい時代に向けて、天皇陛下のご退位と皇太子殿下ご即位が、つつがなく行えるように万全を期していきたいと思っております。

そして新しい時代にふさわしい、令和の時代を切り開いていくために、準備万端、万全を期していきたいと考えております。なお新元号については、閣議決定を行った後に宮内庁を通じて、天皇陛下、皇太子殿下にお伝えをいたしました。